

**令和8年第3回（6月）筑紫野市議会定例会
第3回総合スポーツ施設の整備に関する特別委員会**

○日 時

令和8年6月8日（月）午後1時00分

○場 所

筑紫野市議会 第2委員会室

○出席委員（10名）

委員長 横尾 秋 洋

副委員長 宮 崎 吉 弘

委員 田 中 允

委員 辻 本 美恵子

委員 高 原 良 視

委員 坂 口 勝 彦

委員 段 下 季一郎

委員 前 田 倫 宏

委員 赤 司 祥 一

委員 春 口 あかね

○欠席委員（1名）

委員 白 石 卓 也

○議長（1名）

原 口 政 信

○傍聴議員（5名）

議員 上 村 和 男

議員 西 村 和 子

議員 山 本 加奈子

議員 古 賀 新 悟

議員 吉 村 陽 一

○出席説明員（0名）

○出席事務局職員（3名）

局 長 杉 村 真 子

課 長 高 木 美智子

係 長 本 田 潤 平

開会 午後 1 時00分

○委員長（横尾秋洋君） 皆さんお集まりいただきましてので、第3回の総合スポーツ施設の整備に関する特別委員会を開会いたします。

まず、傍聴の件をお諮りいたします。5名の議員が委員会の傍聴に出席しておりますので、まず報告しておきます。

続いて、本特別委員会に一般市民1名の方より委員会審査の傍聴の申出があつておりますので、これを許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君） 御異議なしと認めます。よつて傍聴のお申出を許可することに決しました。

ここでしばらく休憩いたします。

休憩 午後 1 時01分

再開 午後 1 時02分

○委員長（横尾秋洋君） では、休憩前に引き続き会議を開きます。

まず、傍聴の件を御報告いたします。本特別委員会に5名の議員が傍聴に出席しており、一般市民の方から1名の出席があつております。

では、会議に入ります前に念のために申し上げますが、会議中、発言のある方は挙手をし、いただき、委員長から指名を受けた後にマイクのスイッチを押して発言していただきますようお願いいたします。

また、携帯電話等お持ちの方は電源を切るかマナーモードをお願いをいたします。

それでは、議題1、4月22日の委員会を振り返つてですが、レジュメを見ていただきたいと思ひます。

この前の22日に第2回目の協議をやりましたが、それをおさらいしたいと思つてます。タブレットを開いていただき、総合スポーツ施設の整備に関する特別委員会要約ということで、4月22日の分を要約して重要なポイントを書いておりますので、これを事務局のほうから読み上げて、22日のことをさらに思い出していただきたいと思ひます。

では、本田係長、お願いします。

○議会事務局係長（本田潤平君） 22日の要約に関して読み上げさせていただきます。

重要なポイントとしまして、一つ目、委員会の役割と経緯ということで、文教福祉常任委員会での所管事務報告から、予算規模や影響の大きさを考慮し、より広範な議論を行うために本特別委員会が設置されました。

2、既存施設の課題。農業者トレーニングセンターの老朽化や耐震性不足、空調未設置、現在のスポーツニーズ（面積や基準）への不適合が喫緊の課題。

3、施設規模の検討。単なる体育館の建設にとどまらず、総合グラウンドやサブアリーナ、文化施設との複合化、駐車場の確保など多角的な視点で議論。

4、市民ニーズの把握。既存のアンケート結果（回収率30%）だけでは不十分との指摘があり、より詳細な需要予測や特定の種目に特化するかどうかの検討が必要。

5、学校開放の現状。小中学校の体育館は夜間まで稼働率が極めて高く、飽和状態にある。新施設がこれらあふれている利用者をどう吸収できるかが鍵。

6、周辺自治体との比較。筑紫地区や近隣の新設事例を参考に、機能の差別化や広域連携の可能性を模索。

7、運営コストへの懸念。おおむたアリーナ等の事例を引き合いに、将来的な電気代や維持管理費、赤字幅を考慮した持続可能な計画が求められる。

8、執行部案への疑義。執行部が提示した四つの選択肢ありきで進むのではなく、議員側からも多様な案を出し、選択肢を広げて議論すべきとの意見。

9、稼働率の分析。単純な稼働率だけでなく、予約の倍率や時間帯別の実態、市外利用者の割合など、詳細なデータの精査が必要。

10、用地選定の慎重性。用地を先に決めるのではなく、必要な機能や面積を確定させた上で、混乱を避けるため慎重に進める方針。

決定事項。

議論の優先順位の変更ということで、用地の議論を先行させるのではなく、まずはどのようなスポーツ施設が必要かという基礎的な機能、需要の議論を深める。

追加資料の請求。執行部に対し、小中学校体育館、農トレの稼働率、他市の施設規模や稼働状況の詳細なデータ提出を求める。

議員提案の準備。次回までに委員それぞれが理想とする施設案や必要な機能についての考えを持ち寄る。

次のステップ。

前回の要約ですが、6月議会中の早い時期に設定する。

執行部からの報告。請求した基礎調査データについての詳細説明を受ける。

次のページでございますが、議員間討議。報告を受け、第3回以降の委員会でどのような方向に議論を導くか具体的な方針を協議する。

事務局としましては、委員から出された資料請求を取りまとめる。

以上でございます。

○委員長（横尾秋洋君） 説明を受けて、大体そういう要点であったろうと思います。あとは、事務局でちょっと調査してもらったところを説明していただきたいと思います。だから、近隣市で4市の春日、大野城、太宰府、那珂川の状況を調べてありますけれども、大体どういう状況であるかだけをちょっと先に説明していただきたいと思います。

○議会事務局係長（本田潤平君） まず、春日市でございます。ちょっと回答のほうを送りましたけれども、こちらとしましては、スポーツ施設の県大会、九州大会、国スポなど公式でできる競技の一覧が分かる資料の御提供をお願いしますということで質問を投げかけております。

春日市は、まず競技一覧は作成していないということで、またスポーツセンター、ハンドボール、硬式野球以外の競技につきましては、競技団体との打合せの上、可能な限り対応するようにしているということです。

また、各スポーツ施設の稼働率が分かる資料の御提供をお願いしますということで、別紙で利用状況のとおりということで回答をいただいております。

まず、総合スポーツセンターについてです。パンフレットを御覧ください。平成28年4月11日にオープンしております。春日市総合スポーツセンター。体育館は、バスケットボール2面、バレーボール3面、バトミントン10面を確保できるメインアリーナがございます。また、2階は観覧席1,000席あり、ゆったりスポーツ観戦することができますといったことで、体育館、屋外施設、温水プール、総合的な施設の紹介がございます。また、2枚目にもサブアリーナをはじめ各施設の写真がございます。弓道場、武道場、テニスコート、相撲場など、多岐にわたる施設がございます。また後ほど御確認ください。

続きまして、春日市スポーツセンターの利用状況でございます。稼働率までは出ておりませんが、来場者数、利用状況、人数が出ております。平成28年度から令和6年度まで、メインアリーナに始まり総合スポーツセンターの温水プールまで、また西野球場、北スポーツセンター、若葉台テニスコートなど、様々な施設の利用状況を提示していただいております。

春日市については以上です。

続きまして、大野城市でございます。大野城市、公式の試合ができる競技、バスケットボール、バレーボールなど、様々な競技を挙げていただいております。米印ですが、観客席数、駐車場数の面で利用を辞退されることがありますが、上記種目においてコート の規格自体は問題ありませんとされております。

稼働率につきましては、別紙のとおりでございます。4月から7年度分の利用状況を提示していただいております。右端のほうに利用者数、またその対象枠、稼働率ということで、こちらは稼働率まで記載していただいております。総合体育館に始まり乙金多目的広場など、多岐にわたる施設の詳細が記載されております。4月から月ごとでございますが、12ページにわたって12月分まで資料をいただいております。

大野城市については以上です。

太宰府市にまいります。太宰府市とびうめアリーナでございますが、情報としましては、ホームページの情報と一致しております。アリーナ、競技使用例など、バスケットボールに始まりバレーボール、バドミントン、卓球、バウンドテニス、柔剣道などの施設利用が掲載されております。また、観客席についてもホームページの情報を資料としていただきました。2階にランニングコースなどを設けております。そして、利用状況でございますが、こちらは施設利用状況一覧ということで文化施設、スポーツ施設も含んでおります。中央公民館から始まりますが、こちら人数の記載となっております。最後のほう、2枚目に太宰府市総合体育館の利用人数が掲載されております。アリーナ、柔道場、剣道場、多目的ラウンジなど、様々な施設の人数を掲載しております。年度は令和元年から令和6年度分です。

筑紫地区最後が那珂川市でございます。那珂川市ですが、資料といたしまして、まず総合運動公園整備運営事業というものの資料をいただきました。P F I 事業として、民間の資金、ノウハウを活用したP F I 方式で整備。事業費が52.7億円。事業期間、令和8年3月23日から令和25年3月31日までということで、体育館とは異なりますが新たに総合運動公園を整備するような事業を展開されております。

資料につきましては、12ページほどにわたりますが、もう事前に御覧いただいたかと思いますが、陸上競技のトラックでありますとか、観客席の映像、イメージパースでございますが野球場、少年サッカーなどが利用可能。また、弓道場など、今後総合公園整備事業が行われていくといった内容になっております。

また、別添の資料でございますが、各小学校の体育館の利用者数、また下のほうに市民体

育館などの人数、ちょっと稼働率とまではいきませんが、人数を掲載していただいた資料をいただいております。

筑紫地区については、以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 調査はもう筑紫地区ですかね。

今日は、ちょっと最初に言うべきやったと思いますけど、前回執行部から1時間程度の説明を受けて、議員間討議を1時間半ぐらいやって、まだもう少し議員間討議が必要かなと思いましたので、今日一日また議員間討議を少し、1時間程度やって、あとは22日に今度は執行部を呼んでやりますので、執行部の意見を聞きながら話を進めていきたいと思っております。

一部個人的に大牟田の体育館を見にいかれたりしてあるようですが、まだこの委員会としては全員そろって行っておりませんので、その取扱いをどうするか。春口さんから報告書はいただいておりますけども、後でその件は議題にしたいと思います。

今、本田係長から説明を受けましたけど、皆さん方のほうから何か御意見があれば話を聞きたいと思います。また、今日は前回を受けて委員それぞれの思いがあればもう一度持ち寄って話をしたいなというところでありますので、皆さん方からの御意見があればお聞きしていきたいと思います。

こうして見ると、やっぱり筑紫野市が一番スポーツ施設の整備に関しては遅れとるんかなというふうに感じますよね。ただし、この筑紫野市スポーツ施設整備基本計画は令和7年の11月、去年の11月にできたというところで、これに基づいて進めていくという形になっていくでしょうけど、まだそれを受けたばかりですから、我々としてはどうするかということをもとめておりませんので、皆さん方の忌憚のない意見を聞いていきたいと思います。

何か意見があれば自由に発言してください。

○委員（辻本美恵子君） それぞれの考えをまとめてくるようにって言われたので、もう前回のお話を聞いた中で、体育館についてどう考えるかというところで、もう一回検証というか、説明を検証してみたというところで「使いやすいスポーツ施設日本一を目指します」ということで、多くの市民がスポーツに親しみ、集えるよう気軽に利用できるなど、使いやすい施設ということであれば、私は居住地に近い校区内、コミュニティ内にある施設でのスポーツ環境の充実が望ましいと、前回もお話ししたと思いますが、それじゃないかなと思っております。

体育館が完成するのは、今からうまくいっても7年後。地域での健康づくりとかスポーツ

参加をまずは進めるためにも、学校にある体育館施設の充実、グラウンド周辺の環境整備、コミュニティセンターでのスポーツ環境の整備。一部進んでるところもあるんですけど、卓球台とかバスケットボールとかウオーキングロード、コミュニティでできるものはそこまですぐやってもいいんじゃないかなというふうに思います。

基本方針1、2、3、4が示されてたと思うんですけども、スポーツに親しむ拠点づくりで項目が七つありました。スポーツを「する」「みる」「ささえる」拠点として。市民の日頃の利用、居住地に近い学校区コミュニティのほうがよいと思ってます、スポーツをするにしてね。一般市民のアンケートの多くがウオーキングとか室内の小さな運動のことをよくやりたいというふうに希望されてるんです。アンケートのどこに焦点を当てて伝えるかというのが、執行部の考え方とはちょっと違うんじゃないかなと。競技スポーツが主になったような報告を受けたような気がするんですね。あと、専門的なスポーツができる。バスケット、バレー、バドミントン、卓球など、設備が必要というところでは、大会ができるサイズが必要かなとは思ってます。

2番目の日常の練習等で使い勝手がよく、これは1と同じでやっぱり日常で使うなら居住地に近いところがいい。各種大会に対応できるアリーナ、これはやっぱりサイズ感が今の農トレよりはやっぱりちょっと大きいほうがいいかなと思ってます。研修室、会議室は汎用性があるのであると便利。観客席は必要。空調も必要。トイレ、シャワー室の充実。ユニバーサルデザインは重要。アダプテッドスポーツに対応できる施設、これはもう最近の時代から言えば重要だと思ってます。

基本方針の2、市民が親しみ集う場所づくり。1番のイベントや式典等を開催、可動式のホールのようなものをイメージしているのか。これは春日もそうだったんですけど、音響に難があると思うんです。一つの建物でスポーツに使うのと音楽イベントとか演劇にはやっぱり向かない。何て言うかね、二つのことを兼ね備えたものは両方とも駄目になるっていうのの典型じゃないかなと思ってます。あと、インクルーシブの考え方は重要だと思います。キッズルーム等遊具広場、子どもの居場所、これはあるとよい。運動と同じように、精神的な面で言えばいいので。

4番目のアクセスのよさが必須じゃないかなと思ってます。執行部が出していただいた資料で、筑紫野市のスポーツ施設がずっとあるんですけども、これも後で説明しますが、アクセスのよさが利用率、稼働率につながってるなっていうのが一目で分かります。

基本方針の3、スケールを生かした防災拠点づくり。これは避難所と防災資材の備蓄、災

害活動の拠点ということですが、これは社協のあるカミーリヤで今も使われているので、それをさらに充実するほうがいいんじゃないかと。機能が充実したバックヤード、避難所として機能できるような配慮は必要だと。これはそうだと思います。

基本方針の4、環境に配慮した施設づくり。1が太陽光発電とかLED照明、高効率の空調。これは省エネ、ランニングコストは非常に重要だなと思ってます。自然換気、外気の影響を受けにくい。これはもう高断熱は必要だなと思ってます。景観に配慮、これは当然。癒やしの場としては、緑の集積も絶対必要じゃないかなと思ってます。

改めて現状の筑紫野市のスポーツ施設を見たら、今委員長がちょっと少ないんじゃないかと言われたんですけど、分散されてるだけで、ものとしては1が農業者トレーニングセンター。これは課題とされていることを改善する。もう課題はずっと出てきてるので。アリーナを拡大してバスケットとかバレーとかバドのコート数を増やすというところを目途にアリーナを整備する。

2番目の筑紫運動広場。これは農トレの横にあって連携させれば非常に便利なところなので、トイレの環境とか観客席、休憩室、あそこはテニスコートの増設があればさらに使えるのかなと。

3番目の御笠運動広場。これもトイレ、ベンチ、シャワー、休憩室があればいい。

4の山家スポーツ公園。これは残念ながらアクセスが非常に不便で、利用が増えるように施設改善の調査をするということが必要。

上原田公園。これもアクセスが課題です。

6、総合公園。これアクセスを便利にっていうので、これは公園の横にあるということで、ちょっと工夫次第では利用が増えるんじゃないかなというところでは、この4、5、6については施設改善の調査をまずしたほうがいい。

7番目の諸田の多目的グラウンド。これも非常に稼働率が高いです。トイレ、ベンチ、シャワー、休憩室があればいい。

8番目の上古賀グラウンド。これもよく使われている。トイレ、ベンチ、シャワー、休憩室があればいい。

10番目に、これは書かれてないんだけどカミーリヤ。これは基本的には健康づくりのための施設としてトレーニング室があるので、それとウォーキングロードもある。ここは充実させることで、あとは高齢者用の健康遊具も置かれているので、この辺を充実させることでちょっと魅力的なカミーリヤに、運動施設となるんじゃないかなと思ってます。

考え方としては、私は農業者トレーニングセンターを中心とした筑紫運動広場、諸田多目的グラウンド、カミーリヤ、この4施設を結ぶような健康スポーツゾーン化をしたらいいんじゃないかなと。新たな土地を求めるのではなく、今あるものを生かして連結させて、一つの、言いましたけど、健康とスポーツのゾーン化で十分大きなものができるんじゃないかなと思っています。

体育館は今の農業者トレーニングセンター、勤労青少年ホーム、メインアリーナとサブアリーナがあるので、この辺で建て替え。3階建てか4階建てぐらいにすれば十分大きなものができる。敷地としては、この辺2.8ヘクタールあるのでいいのかなと思っています。だからサイズアップでの建て替え。

施設の稼働率ですけど、皆さんに配られてる執行部提出の資料ですね。筑紫野市にあるスポーツ施設見ていただきたいんですけど、青文字と赤文字でどのレベルの運動というか、されてるかということも色分けしてるんですけど、農業者トレーニングセンターのメインアリーナの稼働率は83.18%、よく使われてます。これはやっぱり桜台という駅が近いということで中学生、高校生が来やすい。それからサブアリーナが、これはあまり使われてないということです。筑紫運動広場は71.58%。御笠運動広場も71.65%、ここまでよく使われている。やっぱりアクセスがいいということです。山家スポーツが64.75%です。ちょっと下がっていくんですね。上原田公園が59.52%、だんだん下がっていきます。総合公園も61%と43%。諸田多目的、農トレの横ですけど、これはやっぱり78.03%あるんですね。上古賀グラウンドが83.35%と、やっぱりアクセスの問題と稼働率は非常に繋がってるんじゃないかなと私は思っています。

結論として、アリーナが太宰府がメインが1,650平方メートルでサブが343平方メートル、糸島がメインが1,987平方メートルでサブが955平方メートル、飯塚が2,570平方メートルでサブが848平方メートルと。これぐらいの規模のものを造れば、バスケットコートが2面、バレーコートが3面、バドミントンが10面。太宰府は競技用でバスケが1面から2面、バレーが1面から2面、バドが8面、卓球が24面、拾った数字でこんだけです。

筑紫野市に特徴を持たせるとしたら、よその市に比べてバドミントンが非常に盛んであるところを言えば、バドミントンの大きな公式なイベントができるように、バドミントンコートが今少ないので、もうちょっと増やしていけば筑紫野らしい体育館、メインアリーナを持つ体育館になるんじゃないかなと思っています。

以上です。今までいただいた資料から私が考えたところです。

○委員長（横尾秋洋君） 大体今辻本委員の言われたとおり、大体まとまった話だなと。地域には地域の中のコミュニティを中心としたところの誰でもスポーツができるというところと、それと上原田にしる山家にしる、ちょっと特徴があって、上原田公園は宝満環境センターというかクリーンヒル宝満の条件整備で上原田公園をつくっていった。山家の場合は筑慈苑の火葬施設の譲渡と条件整備でつくっていったというような経緯があって、各地域にそれぞれ分散した機能が備わるとなるなど。

あとは、要するに、先ほど言われたように、農トレの体育館の機能が非常に耐震化もいろんな問題があるから、そこにきちっとした施設を造ったらどうかというような話で、全体的に網羅されたまとめの話であったと思います。

辻本委員の話を聞いて、ほかにまた御意見あったらお聞きしたいなと思います。

春口さん。

○委員（春口あかね君） 先ほど辻本委員が言われたように、用地先行で考えるのではなくて、稼働率、立地条件を見て決めていくのがよいと私も思っておりまして、春日と太宰府の稼働率をちょっと見比べてみたんですけど、ほかのものが筑紫野と統計の取り方が違ったんであんまり比較ができなくて、一応春日と太宰府のを見てみたんですけど、まず春日のほうがメインアリーナの稼働率っていうか利用人数ですね、これは。コロナ禍は少ないのが分かるんですけど、令和4年度をピークに減ってきているんですよ。サブアリーナのほうが増えていて、今ちょうど平成28年度と同じぐらいの人数まで落ち込んでいるということで、あんまり大きく造り過ぎても使われないんだなっていうのがこの資料で分かるかなと思います。

一方で、太宰府市の総合体育館は、コロナ禍で右肩上がりなので、太宰府ぐらいの規模だと市民が使いやすい場所なのかな。あとは多分場所にもよると思うんですけど、太宰府市を参考にしていくのもよいかなと思ってます、規模を考えると。

一応私も前回まとめてきてくださいっていうお話があったのでまとめてきたんですが、スポーツ推進計画と基本構想とあと公共施設等総合管理計画が今年の3月に新たに改定されたので、その資料を加味して資料をつくっているんですけども、1番はどんな体育館をつくるかっていうわけではなくて、今後30年間でどの公共施設が必要なのか。維持費とかライフサイクルコストとかを計算したのが資料に載ってるんですけど、平均で16億円しか使えない計算になっていて、今のままだともう全く足りない。今までの平均6億円公共施設に使っていたんですけど、これから平均で38億円かかっている、2056年まで。ピークがここ20

年ぐらいです。

と考えると、文化会館が翌年恐らく50年経過するので、文化会館を補填する場所が今のところないので、もし建設ありきで総合体育館を考えるとするなら、例えばコンベンションで使えるような機能を持たせないと、文化会館どうするかみたいな話にすぐなってくるので、あとは10年後に生涯学習センターの改修が必要だったりとか、その前にカミーリヤが必要だったりするので、総合的に何を残していくのかっていうのも考えた上で、じゃあ体育館を造るならこの施設の機能は入れておいたほうがいいよねという話にしたいなと思っているところです。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 春口さんの今の意見は、要するに市が持つとる、何とかな、文化会館とかスポーツ施設とかいった、そういうこと全体的なところを見渡して検討すべきやという意見ですよ。

○委員（春口あかね君） 大牟田の件をどう扱うかというふうに言われてましたが、私も大牟田のほうに勉強しに行きまして、大牟田が造ったときは2分の1が国庫補助で使えて、そのまた半分が過疎債が使えたので、うちですとなると、人件費と資材費入れると、やっぱり当時の値段の1.5倍から2倍以上は見ておかないといけないかもしれませんねというふうにアドバイスをいただきまして、複合的な施設にしていくと、窓口の一元化ができるので、やっぱり体育館のみではなくて全体的に考えていく必要があるんじゃないかなとは思っています。

あとは、ちょっと平日の利用が鍵かなと思っているので、体育館はどうしても平日の利用がないから、ステージ利用ができるような機能を入れるのかとか、他市を見て足りない部分とか、あとは建築物なので40年、50年もつと思うので、その先まで見て考えていきたいなと思います。

○委員長（横尾秋洋君） 分かりました。ほかに意見ありませんか。

高原委員。

○委員（高原良視君） 皆さんの声聞いとったら、体育館建設の分ですと進んであるみたいですが、筑紫野市には体育館を利用するスポーツ、それから体育館を利用しないスポーツ、もうたくさんあるんですが、体育館の老朽化とかそういうもの等を含めながら体育館建設を優先するという市の基本的な考え方で進めてあるんですが、その中で、体育館を利用しないスポーツ、いろいろ話出てましたが、今までの中で小学校の体育館を利用している。その

分については、市のほうは利用料を上げるというようなことで、議会の中でもこれは駄目だということでその分は否決した。

そういうものを含めながら、そういうものが学校の中での部分、今辻本さんのほうから出ました地域のスポーツという形の中で本当に満足されているのか。近くの分の運動の分、満足されてるのかということで、本当の利用者というか市民の声が活かされてるのかなというものも心配ながらあります。

それからもう一つ、各それぞれの自治体のいろんな判断の中で、文化とかスポーツというようなものが非常に重要なものとして捉えられる。今スポーツについてはいろいろ議論してるけど、先ほど春口さんのほうから話がありました文化会館の問題、これがもう棚上げされてるって。もうこれこそ喫緊の課題なんですね。こういう課題を棚上げされたまま修繕しながら使っていくというようなもの、そういうことではちょっともう少し議論をせないかんのかなということ。

それから、体育館もいろいろ議論されておりますが、体育館はどの程度の大会を催したいのか。そこまで我々はこういう今いろんな意見の中、いろんな市が持ってる必要なものを含めて、本当のこれから10年先、20年先、30年先の財政計画の部分が立ってない。このやっばり財政計画をしっかり立てていかないかんというようなことで私は思います。

ということで、体育館建設の結論を急ぐんじゃなくして、もう少し十分みんなで議論をしていくべきじゃないかなというふうに私は思います。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員の意見が出ました。ほかにありませんか。

赤司祥一委員。

○委員（赤司祥一君） ちょっと私もいろいろ全国の事例を見てまとめてはきているんですけど、先ほど辻本委員がおっしゃったように、例えばバドミントンが多いからとか、バドミントンはより上の大会できたりとかっていう、何かスポーツに特化するってのもすごくいいなと私は思ってます。

あと、春口委員が言ってたように、文化会館の要素も加えてっていうような形で、せっかく建て替えるんだったら、もう単に最低限のスポーツができる、そういう最低限のものができるものだけじゃなくて、もっとほかの要素も複合させて造るっていうのも私は賛成です。

ただ一方で、私は一つ意見として違ったのは稼働率、この4市の稼働率もしくは利用者数ですね、この数字的な何でしょう、経緯だけでは測れないものが結構あるんじゃないかなと

思ってます、ほかの全国のやつを見ても、各市町村が造ってる体育館の規模と人口って全く相関がないんですよね。もう例えば10万人規模のところでもメインアリーナ3,000平米近いところ造ってるところもあれば小さくてもっていう。

これ何かいろいろ調べてると、やっぱり基本市民優先で使ってもらうんだけど、やっぱりちょっと規模を大きくしてるところはもっと外から人を呼び込んで県大会とか九州大会、全国大会とかができるようにしているようなところもあるし、そういうふうにと考えるとさっき高原委員がおっしゃったみたいに、例えばバドミントンとかバレーとかに特化するとかでもいいと思うんですけど、そもそもの程度の大会を催すレベルのものを造るのかというのを結構長いスパンで見てやっぱり考えないといけないのかなと。

あと、さっき春口委員がおっしゃったみたいなコンベンションとかを誘致するとなると、どうしても客席が結構いたりとかすると思うんですよ。下関にある総合体育館、メインアリーナ3,174平米あって、これ見るとバドミントンの大会が結構あってるみたいなんですけど、とっても、何ていうんでしょうね、メインアリーナから上の客席が斜めにあるような形で、確かにこういうのがあれば、いろんなコンベンションだったり大会も開けるなというのはあるので、複合で考えていけばやっぱり客席数とかもある程度確保しないといけないのかな。今の筑紫野市が出している計画よりももっと客席数は増やしたほうがいいのかと思うったりもしてます。

あと、大牟田もそうなんですけど、下関もそうでネーミングライツを活用しているところも結構あって、下関だったらJ:COMアリーナ下関ってあって、これJ:COMの本体が関わってるわけじゃなくて、J:COMがケーブルテレビをやってる下関にある子会社を一応メインにしてネーミングライツ年間700万ぐらい払ってやってますし、あと筑紫野市と同規模で言うと、滋賀県の彦根市にあるプロシードアリーナっていう名前のところ。ここは株式会社プロシードってところがネーミングライツ取ってやってるんですけど、何かそういうふうに運営することでより知名度が上がったり、いろんなところに使ってもらえたりっていうのは加速していくのかなと。

だから、僕はネーミングライツとかも含めて、かつもう市民優先だけでもっと外からも使ってもらう、人が来るような大会、九州大会とかは最低でもできるようなメインアリーナを有する施設のほうがいいのかなと。

そういうふうに広げていくと、多分この稼働率とかも全然変わってくると思うんですよね。本来使わなかった人がより、例えば本当に最低限の体育館だったらそんな伸びないかも

しれないけど、そういう体育館にすることでもうちちょっと稼働率だったり、使ってくれる人が上がったりっていうふうにはしていくとは思っているので、じゃあどうするのかっていうのはすごく議論が必要だとは思いますが、私も先ほど高原さんがおっしゃったように、どの程度の規模の大会をみたいなところをみんなで話して規模は決めていったほうがいいんじゃないかなと思ってます。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） いろんな意見を聞きました。ほかにありませんか。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） 今回、委員の中でもやっぱり土地の選定もしかり、建物もしかり、考えていかなければならないという声があったと思います。前回の文教福祉常任委員会のほうでの整備費に関しての資料に対する私の質疑で、今の高騰する中での金額とじゃあ今見合ってるのかということ、もうそうではないと。ということであれば、やっぱり財政規律が一番大事だと思ってます。

そうした中での整備費、必要な施設、賄える土地等をまた再度出していくということが、やはり建設費が一番ネックだと思いますので、そうしたところを市がどう考えるのかっていうのは、そこにしかりかなというふうに思ってます。

あと、今回那珂川市の資料をちょっと初めて拝見させていただいて、いろんなビジョンがあるんだなと思っている中で、筑紫野市の市が考えている部分というのは、やはり今各委員からいろんな御指摘というか意見があったとおりで、まだ見直す余地が十分あるというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（横尾秋洋君） ほかに。指名していいですか。

坂口委員。

○委員（坂口勝彦君） まず、文教福祉委員会のときに、答申までという話を受けておりました。その中で、案が面積に応じて四つほどこういった形で、このぐらいの面積だったらこういうことができますよという可能な具体的な敷地の使い方というのが提示されてあったんですけど、果たしてそれが今の時点で、まず土地がじゃあどこにするかっていうところも、今辻本委員が言われたみたいに、やっぱり人が集まれる交通の便がいいようなところじゃないとその活用がしにくいかなと考えているところではあるんですけど。

市のほうが案を出したところに関しては、今例えば春日市とか那珂川市とか太宰府市と

かいろいろモデル的な部分を拝見したんですけど、ほぼほぼ同じような形になるんだろうなというふうには思いました。なので、今私が考えてるのは、まずどこに造るのか。あと財政もやっぱり今から上がってくるだろうから、本当にそこら辺のところをもう一回きちんと考えないと、もう具体的なイメージっていうのはもうここに出てますので、やっぱりその部分が一番考えなきゃいけないところなんじゃないかなというふうには思っております。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員、何か意見ありませんか。

○委員（田中 允君） 結局どのような形の中で、まずどの程度予算が我々筑紫野市として財政力があるのかと。そこも考えないと、やっぱり規模なんかできない。今日の話の中では、今まではいつもプールが出てきていたんですけど、今日はプールが出ませんでしたけど、そういうことを考えての話かなと思いましたけども。やはり財政規模がじゃあどの程度できるか。このところをもうちょっと検討するというか、執行部と打合せしながら検討していかなければならないんじゃないかなと、私はそう思ってます。

○委員長（横尾秋洋君） 今、田中委員は財政という形が出てきました。

段下委員。

○委員（段下季一郎君） 私も、やっぱり市民アンケートの結果で、個人がもうちょっと体を動かせる場所が身近に欲しいってのは出たので、辻本委員も言われてたように、そういう場所についても、ある程度コミュニティだとかそういったもので整備しておかないと、やっぱり市民の理解が得られないんじゃないかな。このアンケートはアンケートであるわけなので、やはりそういった身近でできるスポーツについても、もう少し全体の中で考えるってことをしないといけないのではないかなというのがまずあって、どういったのがいいかっていうのは、やっぱり財政的な問題もあると思うので、私も先日大牟田市に勉強に行ったところなんですけども、あそこはやっぱり過疎債が活用できたり、あとは立地適正化計画をつくって中心市街地に公共施設を集約させるっていうのをしてたんですよね。そういったものができてたから、そういう交付金を活用して、要はあれだけのものができた。

広さ的には結構広い、延命公園の中にいろんな施設が集約してあったんですけども、うちの市でそういったものが果たしてできるのかっていうのが、同じ規模のができるのかっていうのは、やっぱり建設資材の高騰とか考えると、やはりおおむたアリーナ並みのができるのかっていうのは少し疑問点も生じてきたので、その点は結構慎重に考えないといけないのではないかなとは思いました。

一方で、農トレが老朽化してる、ちょっと手狭になってるっていうのは間違いがないので、

コートが狭過ぎてできないっていう話もこの前の説明でありましたので、今の規模よりかは大きいのは要るんだろうけども、じゃあ果たしてそれが1万平米、おおむたアリーナと同じものまで必要なのかっていうのが、その中間ぐらいの選択肢もあるんじゃないかなと、規模的にはですね。そういったのはちょっと思ったところでもありました。

ただ、私もまだ調査不足で勉強不足なので、その点はまだいろいろ調査と勉強していきたいなと考えてるところです。

今の時点では以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 大体主な意見が出尽くしたかなというふうに思います。だから、大きくは辻本さんが言われたように、地域でのスポーツができる施設をどう考えていくか。これは多分コミュニティ単位で考えていくという形になっていくんでしょうけど、それが具体的にどう展開していったのかということがちょっとまだ明確でないということが一つあって。

それから、問題は財政上どこまでの投資ができるのかと。しかし、現時点ではイランとの石油の問題で非常に物価高騰して、今でも新しく新規のマンション建設が今中断をしてるというようなところもありますから、これがいつまで続いていくのか、この状況が。これ延々と続いていけば、今の段階でじゃあ2年後、3年後に建てる時どれだけのコストになるのかなというのはなかなか算定できないという形になってくるでしょうから、そういう形で見えていくこと。

それから、やっぱりどうしても農トレが古くなってる。いろんな、冷暖房が効いてない。それからあそこはバトミントンなんかほとんどできない。今はできるんか、風が出てないから。しかし非常に暑い。それから、小中学校で今度の夏休みで空調を整備するでしょうけども、冬場は汗かくからスポーツできるんだけど、特に夏場が熱中症で倒れて、今日も辻本さんの中で言ったように、バトミントンで熱中症で倒れて救急車で運ばれるという事態も発生しとるんで、それはもう学校はできるんでしょうけど、それはもう地域という形になってきて、特に部活関係。

それから、この前も小学校に立っとなら、ようやくイトマン水泳のバス3台、原田小学校に入ってきて、そこで子どもたちを連れてプールに行ってる。中学生はまだ自分ところのプールでやりますよということやから、そういう総合的な問題があってきて、大体今日、今皆さん言われたようなことで集約できたのかなと。

財政問題が1。地域の中でスポーツをどうするか。それと、ちょっと余談でしょうけど小

中学校の空調関係の問題。それから、農トレに代わる施設としたときにどのぐらいの規模の大会ができるものをするのか。どういう施設をそれに造ってくるのかという考え方。大体こういう形で見て集約できたのかなという感じがしてます。

これを受けて、じゃあ次に執行部とどういう協議をしていくのか。特に場所の問題も出てくるでしょうし。しかし、執行部としては非常に急いどるというような感じを受けるんで、そんなに慌ててせんでもいいじゃないかと、今言われたようなことをもう少しじっくり検討して、来年3月ぐらいまではきちとした形で協議していけばいいのかなというような感じもするんで。

ちょっと今まとめたような感じでほかに意見がありますかね。

前田委員。

○委員（前田倫宏君） 3月の予算委員会にちょっと遡らせていただきますけれども、この総合体育館整備検討事業の中で、事業の内容として、総合体育館等の整備に向けて補助金活用に向けた国、県との協議及び当該協議に要する資料作成など具体的な検討の推進に必要なとなる諸準備の調査を行うということでありました。

やっぱりこの財源というものがいかに必要か。なお、今の状況では特に言うまでもなくありますので、この補助金活用に向けた国、県との協議の状況であるとか、あと市の資料作成というものが今どういうふうになっているのか等も併せて調査をお願いしたいなというふうには思っております。

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） どれぐらいのアリーナにするかというところで、どの程度の大会をするという今一旦資料出していただいて、これ黒文字と青文字と赤文字で市レベル、筑紫地区レベル、県以上っていうふうに一応分類していただいてるので、これをもうちょっと詳しく、この大会でどれぐらいの人数が来るのかというものをもう一回やってもらって、じゃあ筑紫野市ではどれぐらいの規模のものが適正なのか。もう何というか全国レベルのものを願うもなく、やっぱり県レベルのものができたらいいと思うんですね。その辺でどれぐらいの最低限の稼働率、どれぐらい必要な日数がここでどれだけ使うのかというところまでは出てくると思うんですね。その辺で規模の、じゃあコートが今4面しかないけれども、8面あったらここまでするとか、そこまでも計算できると思うんですね。

基本的に一番大事なのは、取られたアンケートの中身が、一般市民のほうは身近にやりたい。体育館を要望してるのは競技スポーツをやってる人のアンケートの一部なんですよ。

非常にだから大きな体育館建設を望んでるのは限られてるんじゃないかなと思ってるので、本当に今必要な、地域の人にとって一番必要なものは何なのかというところから、もうちょっと精査したほうがいいんじゃない。最低限このレベルの、みんなも希望を持って、運動するからには大会に出てっていうふうにあると思うから、そこまでが市民が参加できるような、競技がちゃんとできるようなものにしていけたらいいかなとは思ってます。

○委員長（横尾秋洋君） 高原委員。

○委員（高原良視君） 委員長がこうやって進められておるんですが、体育館を利用する以外、私最初言わせてもろうたばってん、いろんなグラウンドとか、もう非常に困ってあるところっていうのは物すごく大きなものがあるんですよね。そういうものの要するにスポーツ推進計画、先ほど委員長も言われましたが、昨年の11月に出されたということ、その分じゃあ置き去りにしてというふうになるんですよね。

結局この体育館があと10年近くかかりますよ、何もかんもしようとすればね。そしたら、10年近くかかって、それからまたその計画をするのか。じゃあ、ここでもう少し進めながらという、やっぱりスポーツの推進計画の、非常に多いです、その体育館利用する以外のものも、こういう要望もある。それから小学校の分もね。やっぱりそういうものも並行して、この中で議論もある程度していかないかんやないかなと。体育館ありきじゃなくしてね。

それから、農トレは福岡国体であそこバドミントン会場ですからね。あそこでやってますからね。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 今いろんな筑紫野市の総合グラウンドやらたくさんあるわけです。私も現実直面してるのが、やっぱり自分のそばに隈公園というのがあるんですけども、もう隈公園、直線で100メートルぐらいですけど、ボールが転げて、ボール探しをよくやってると、フェンスが低かったりしてね。それとかソフトボール、筑紫野市のソフトボール協会ですけども、今山口のグラウンドを借りてやってます、ソフトボールですね。でも、あそこの、何ですか、総合公園の船ができて結構通りが多くて、ファールボール打ったら車が日曜日やら多いから、やばいなというように思うところあるんですよ。だから、もちろんそういうものと並行しながら、やっぱり部分的な求められているものを整備してもらいたいなという気持ち強いですね。

○委員長（横尾秋洋君） 赤司委員。

○委員（赤司祥一君） ちょっとさっき言い忘れたんであと2点。

前回のときにもちょっとお話ししたんですけど、やっぱり建築物とかって何でもそうだと思うんですけど、結局出来上がって使ってみて初めて、「ああ、これもうちょっとこうしとけばよかった」ってめちゃくちゃあると思うんですよ。だから、事前に造る前から、何ていうんでしょう、もう何もマイナスの面のないものを造るって確かに難しいなとも思っていて、そうなってくると、確かに物すごい難しいと思うんですけど、例えば太宰府市とかこういう近隣にあるところも含めて、いろんなところでもっとこうしておけばよかったなを集めるのがすごい有意義だなと思って、太宰府市のとびうめアリーナも、やっぱり隣なんで知ってる人にいろいろ聞いたら何か惜しい、これはもっとこうしてれば、ハンドボールとかフットサルはできないとか、ここの高さをもっとあと何メートル上にしとけばよかったとか、結構いろんな話を聞くから、そういうふうに関西にもう出来上がったところから、何かこうしとけばよかったが筑紫野市で達成できれば、筑紫野市のほうにじゃあそういう県大会とかを誘致しやすくなったりもすると思うんで、そういうできたところの何かこうすればよかったなを集めるのがいいのかなっていうふうに思ったのが一つ。

もう一つは、これごめんなさい、去年の記事で去年までスポーツ庁の長官をされてた室伏広治さんの話であったんですけど、ここから20年、30年使うということを考えると、やっぱりどこも人口が減って行って、部活動がもう一つの学校でできなくなるとなったときに、しかも今地域移行していった中で、こういう体育館みたいなところに3校4校集まって合同で部活をしていくみたいなのがもう結構全国でちらちら始まっているみたいで、そう考えたときに、そういう地域の部活動がここを使うっていうのもちょっと想定に入れるべきなんじゃないかなっていうのは思いました。

以上です。

○委員長（横尾秋洋君） 田中委員。

○委員（田中 允君） やっぱり執行部としても、この前説明があったように、今農トレの話出てますけど、これが喫緊の課題だということになってますので、そういう喫緊の課題をまずどのようにして解決していくかということのも大事じゃないかと思ってます。

○委員長（横尾秋洋君） 段下委員。

○委員（段下季一郎君） 身近でできるスポーツの話で、このリストの中にもあるんですけど、高齢者にとって今メインで行われてるっていうのは、やっぱり横尾委員長も要望あったことがあると思うんですけど、グラウンドゴルフがやっぱり結構活性化してかなり行われてると思うんですよ。原田のあそこの公園でも用具を置かせてほしいと要望があったりと

か、二日市公園で5チームぐらい集まって大会をやっているとかなですね。ただ、あそこ二日市公園は駐車場がないし、用具も置けないし、物すごく不便してるとかいう高齢者の声を聞くんですよ。

やっぱり80代、90代の方が一生懸命楽しくそうやってスポーツできてるのは、小学校区やっている現状がある中で、そういった方たちも使えるようなものっていうのはやっぱり必要なんじゃないかな。小学校は子どもに使わせるっていうのが優先してあったりするんで、今グラウンドゴルフとか高齢者の方もする場所がなかなかなくなってきたという現状があるので、やっぱりそういう要望はもう出てますので。例えば、二中の上のあその九電工の跡地をグラウンドゴルフができるようにしてちょっと駐車場つくるとか、何かそういった市全体のスポーツのやつで高齢者の方もできるスポーツ、モルックとかグラウンドゴルフとか、そういうのもちゃんと考えてあげないと、今ちょっと不便な状況が続いてるんじゃないかなと思うんですよ。だから、グラウンドゴルフを地域の発展に生かしている自治体もあるので、何か高齢者の方のスポーツももうちょっと工夫しないといけないかなというのは思ったところです。

○委員長（横尾秋洋君） 春口委員。

○委員（春口あかね君） いろんな皆さん御要望をいただいていると思うんです。例えば、議員の中ではこども館を最優先にする案だったりとか、一応提言書は皆さんに出したと思うんですけど。いろんな必要な施設が例えばグラウンドとか、もう野球連盟の人から足りないって言われて、ソフトボール連盟から足りないと言われてるし、その中でスポーツだけでも絞るとするなら競技スポーツだけじゃなくていいと思っていて、今後生涯スポーツっていう観点で見えていかないといけないと思ってるんですけど、もうさっき言われたように気軽にできる場所っていうのは置き去りにできないかなと思っています。

ていうのが、やっぱり本当に50代以降から病院にかかる率が増えていく中で、身近に運動できる場所っていうのがもっと需要が高まってくると思うんです。医療で賄えない部分もやっぱり自分たちで考えて健康づくりというのをやっていかないといけないと思うので。と考えると、スポーツだけで絞るんだったら、本当にじゃあ農トレが老朽化してるから農トレを喫緊の課題として考えましょうも、それもそうなんですけど、同時にやっぱりスポーツの在り方っていうのは、もしスポーツだけで絞るんだったら考えていかないといけないなとは思っています。

○委員長（横尾秋洋君） ちょうど1時間になったので10分程度休憩します。

————— ・ —————
休憩 午後 2 時00分

再開 午後 2 時10分
————— ・ —————

○委員長（横尾秋洋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

大体皆さん方の意見が出尽くしてきました。総合スポーツ施設に関する特別委員会の次第で前回出てきてました執行部が出した今後の検討項目についてというところをちょっと皆さんに流してもらっていいかいな。

届きました。

これは執行部から出しとって、議題として今後の検討項目について、検討の趣旨、目的、経緯というのを出していって、用地選定の基本的な考え方と抽出、用地の評価・選定、選定用地のサウンディング調査とこういう形があって、これは大体いつまでに出来上がる予定やったんかな、これ。基本計画取りまとめて。これは期日まで、ああ、そうか。用地選定のサウンディング調査が四、五か月かかるということで、大体12月ぐらいまで見とったということで、全部出てくるのは来年3月、そのぐらいまで、12月ぐらいで見とったんかね、これ。

○議会事務局長（杉村真子君） サウンディング調査が約四、五か月かかるということです。

○委員（高原良視君） その前に、ばってん用地の評価選定があるけんね。これはサウンディング調査はあとついてくるもんやから。

○議会事務局長（杉村真子君） はい。

○副委員長（宮崎吉弘君） 用地の選定が終わってからでしょう。

○議会事務局長（杉村真子君） そうですね。

○委員長（横尾秋洋君） だから、今日の皆さん方の意見を聞いて、ここまで至らんよね。

○委員（高原良視君） 至らない。用地選定に至らない。

○委員長（横尾秋洋君） 要するに、財政上の検討が一つある。それから辻本さんが言った地域でのスポーツ施設をどうしていくかということと、それから後で障がい者のスポーツも出てきた。それから農トレの規模の問題、またどういう形をしてくるのか。それに付随したところで、要するに文化会館とか持つとる筑紫野市の公共施設の長寿命化というか、そういう形の計画はどうなっとるのか。それに基づいて、やっぱり財政上の問題もそれに関連してくるという形がありますので。

こういうことを今日まとめたところで、執行部と協議をして、次22日やったですか、どういうレジュメでしてくるかという形で諮りたいなと思ってます。だから、正副委員長に任せただいて、事務局と相談して執行部と今日の協議を受けて取り組んでいきたいと思います。

そして、せっかく春口さんからこうしてこのスポーツ整備全体でということの大牟田に行ったときのがあります。しかし、大牟田市ってもう10万3,000人ってということで筑紫野市のほうがはるかに勝つとるよね。大牟田市の場合は今、関さんよね、市長は。前の環境部長だった。私たちがずっと県に行きよったときの担当部長やからさ、辻本さんもよく知つとると思うけど。あの人やから、だから県とのパイプが非常に強いと思うんよね。だからいろんな予算を持ってくる力があつたんじゃないかなと、そういうふう思うんで、そういうことも踏まえてまとめていきたいと思います。

何か一言、これだけは言うとかないかなということがありましたらお聞きして終わりたいと思いますが。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君） いいですか、そういう形で話を進めて。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（横尾秋洋君） じゃあ、今話を決めたところで、5項目ぐらいあるかなと思いますので、本田係長がまとめてくれますので、それを受けてちょっと執行部と協議をしたいと思います。

じゃあ、以上で今日は終わります。お疲れさまでした。

閉会 午後2時15分